

教 育 長 様

代表者 校 園 名： 大阪市立榎本小学校

公印

校 園 長 名： 勝本孝夫

電 話： 06-6961-0461 F A X： 06-6961-5674

申 請 者 校 園 名： 大阪市立榎本小学校

職 名・名 前： 教諭 齋藤敬子

電 話： 06-6961-0461 F A X： 06-6961-5674

代 表 者 校 園 事 務 職 員 名： 國元 明日香

平成27年度 「がんばる先生支援」個人・グループ研究 申請書

◇ 本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース：( )内は、いずれかを○で囲んでください。 ( 個人 ・ ○グループ ) 研究 ( 基礎 ・ ○今日的課題 ) 研究コース
	継続研究：いずれかを○で囲んでください。 継続研究2年目 ・ 継続研究3年目
2	研究テーマ 国語授業のユニバーサルデザインを探究する ～すべての子に“わかる・できる”授業を求めて～
3	研究目的：箇条書きで端的に書いてください。 ※ユニバーサルデザイン（以後、「UD」） ①児童数の増加とともに、年々新たな課題に挑戦し続ける大規模校である。学校選択制が児童数増加に拍車をかけている。児童数の増加とともに、保護者・地域の学校に寄せる願い・要望も多岐にわたっているが、「学力向上」への要望が年々多くなっている。また、特別支援学級在籍児童も増加傾向（在籍32名、7学級）にあり、通常学級での授業を通した「学力向上」を望む声も多くなってきている。 ②本校ではこれまで、「がんばる先生支援」で「体力」の、「校長経営戦略予算」で「心」の育成を図ってきたが、「学力・体力・心」の調和ある育成のためには、今後は、6年間を見通した「学力向上」に重点的に取り組んでいく必要があると捉えている。 ③過去3か年の学力テストの結果は、算数よりも国語が悪く、その国語の中でもB問題が低い。故に、国語科の6年間を見通した「思考力・判断力・表現力」の育成が喫緊の課題である。 ④今後、ますます児童数が増え続ける本校の特色ある学校づくりのためには、児童の多様な発想や個性を尊重し、共有して、より高めて特色ある学校を築いていくことが求められる。いわば、“多様性から秩序性を生み出す”学校づくり（カオスからコスモスを生み出す学校づくり）こそ、大規模校ならではの取組である。これからの、本校の本格的な活性化には、この取組が重要な鍵を握ってくる。 ①②③④の現状と課題をもとにして、今後の研究の方向性を見据えると、すべての子が参加→無理なく理解→確実な習得→実生活で活用という学習過程をふまえて授業をデザインする“授業のUD化”という方略が浮かび上がってくる。つまり、通常学級での、学力の優劣や発達障害の有無にかかわらず、すべての子どもにとって“わかる・できる”授業の創造という方略である。 この方略に対して、より具体的には、「思考力・判断力・表現力」の源である国語科に絞り、各単元をUDの視点で再構築して授業を展開。特別支援教育に軸足を置いたUDではなく、教科指導に軸足を置いたUDの探究。という2つの切り口から迫りたいと考える。 以上のような理由により、研究テーマを「国語授業のユニバーサルデザインを探究する」、サブテーマを「すべての子に“わかる・できる”授業を求めて」と設定した。
4	研究内容：継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。 ○大阪のみならず、全国で展開されている「国語指導におけるUD」の先行事例を学び深める。 （「国語指導におけるUD」の第一人者である桂聖先生<筑波大附属小>とUD研究会関西支部役員とを講師として招聘する） ○「国語科指導法」と「教科指導に軸足を置いたUD」の双方に立脚して、“わかる・できる”授業を探究。 ○授業のUD化のための「3つの要件」（焦点化<シンプル>、視覚化<ビジュアル>、共有化<シェア>）と「7つの視点」（教室環境、学習のルール、関係づくり、授業の構成、発問指示、板書、教材）を織り交ぜて、「4段階」（参加→理解→習得→活用）の学習過程に沿って、“わかる・できる”授業をデザインする。 ○6年間を見通した「思考力・判断力・表現力」の育成。（学テ結果より浮かび上がった課題） ○児童の多様な思いや個性を尊重しながら、思いや願いを共有化して、ひとつのものに高めていく“多様性から秩序性を生み出す”学級・学校づくりの構築。（大規模校ならではの特色ある学校づくり）
◆	研究内容のキーワード 学力向上、国語科指導、特別支援教育、思考力・判断力・表現力、ユニバーサルデザイン、特色ある学校

5 活動計画：日程など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。		
月	内 容	備 考
4	校内研究全体会	本年度の研究の方向性・目標を明確にする。
5	授業研究会	講師・大阪市国語部元校長（未定）
6	UD基本研修会	講師・久米高弘先生（明石市立王子小）
7	UD夏季研修会（7/21）	講師・桂聖先生（筑波大附属小）
8	各地の研究会・研修会参加	全国大会参加 各地・他校の実践事例研鑽
9	授業研究会	講師・大阪市教育センター指導主事（未定）
10	授業研究会	講師・大阪市国語部役員（未定）
11	授業研究会	講師・大阪市教育センター指導主事（未定）
12	授業研究会	講師・大阪市国語部役員（未定）
1	授業研究会	講師・大阪市国語部元校長（未定）
2	全市公開授業・講演会(2/3)	講師・桂聖先生（筑波大附属小）
3	校内研究全体会	本年度の研究の成果と課題を明らかにする。

## 6 見込まれる成果：子どもの「生きる力」の向上、教員の指導力の向上をふまえ端的に記載してください。

### ①学力向上

- ・すべての子どもが、学習内容の“習得のための思考過程や論理性”を無理なく確実に体得し、「基礎的・基本的な知識・技能」の理解・習得がスムーズに為され、実生活での活用へと流れるようになる。
- ・すべての子どもの思いや考えが、自分の個性を生かしながら、深まり広がりを見せ、生きてはたらく「思考力・判断力・表現力」が確実に身に付き、「生き抜く力」（本校の教育目標）の育成につながってくる。

### ②大規模校としての特色ある学校の構築

- ・相手を尊重し、自分の思いや考えが深まり、共有化してより高めることにより、認め合い支え合う学級が構築できる。
- ・上記の学級づくりが全学級にまで浸透することにより、“多様性から秩序性を生み出す”という大規模校の特性を生かした学校づくりが為されてくる。

### ③指導力の向上

- ・「UDを視点にした学力向上」という、本校の課題に即した明確な目標のため、教員の指導力についても、道筋が明確になり、その向上も大いに成果が期待される。特に、若手教員が大半を占める本校では、有効な研究テーマである。

## 7 成果の検証方法（客観的な指標により、必ず数値で示すことができる方法で記述する）

### ①学力向上

- ・学力差が縮まり、どの教室でも、“発見、驚き、感動”がある、いきいきとした授業の光景が見られるようになる。
- ・発達障害や「配慮を要する」児童の通常学級での授業に臨む意欲が、以前よりも高まってくる。
- ・自分の思いや考えが、豊かで効果的な言葉を通して表現できるようになる。
- ・「聞く・話す・書く」意欲が高まり、実生活で生きてはたらく力につながってくる。
- ・しんだんテストと全国学力調査の国語の正答率が、昨年度より、10ポイント以上アップする。
- \* 学校アンケートの「授業がわかる」項目の「よくあてはまる」「あてはまる」が、低…75%、高…70%以上になる。
- \* 授業アンケートの「お子さんは、授業の内容を理解できていますか」項目の「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する保護者の割合が、全学年で65%以上になる。
- \* 授業アンケートの5つの評価項目（興味・関心・意欲、習得、支援、集団育成、評価）のそれぞれの数値が、学期ごとに5ポイントずつ着実に高まってくる。

### ②大規模校としての特色ある学級づくり・学校づくり

- ・思いの行き違いによる子ども同士のトラブルが減り、児童相互の望ましい関係が築かれる。
- ・児童相互の言葉を通じた交流の場が多く生まれ、差異を認め、相手を思う心情が生まれる。
- ・いじめアンケートの「いじめられたことがない」が、昨年度より、10ポイント以上アップする。
- ・児童に対する学校アンケートの「学校は楽しいですか」項目の「とても楽しい」と、保護者に対する「お子さんは学校が楽しいと思っていますか」項目の「とても楽しい」が、それぞれ、昨年度より、10ポイント以上アップする。
- ・生活指導上の対応件数が「毎日3件程度」、保健室対応件数（生活指導上の来室数）が「毎日10件程度」に減少する。

### ③指導力の向上

- ・学校アンケート、授業アンケートが上記（学力向上の3つの\*）と同様な結果になる。

## 8 研究発表の日程・場所（予定）

日程 平成28年2月3日（水） 公開授業・研究発表・講演会 「授業のユニバーサルデザイン、その具体的展開」（仮題）  
場所：榎本小学校 講師・桂 聖 先生（筑波大附属小学校教諭）

## 9 代表校園長のコメント

本研究は、現状の課題と保護者・児童・地域の願いとを重ね合わせた取組であり、本校が本格的に“打って出る”“挑戦する”学校構築の大きな大きな第一歩となります。どうか、ご理解を賜りご承認くださいますよう、よろしくお願いいたします。